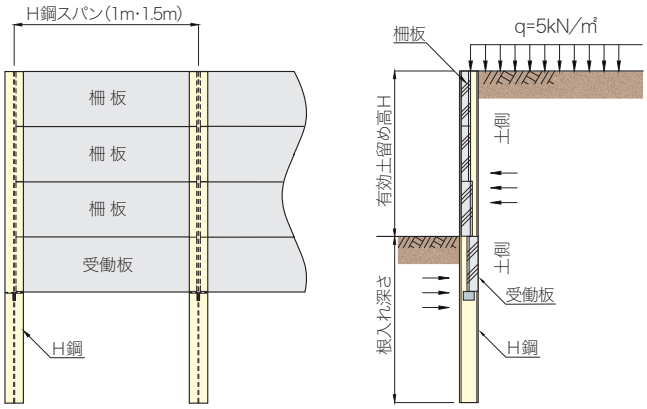
簡易土留め(柵板・H鋼)

上載荷重
等分布荷重 q=5kN/㎡

CAD data DWG SFC

施工例(参考)

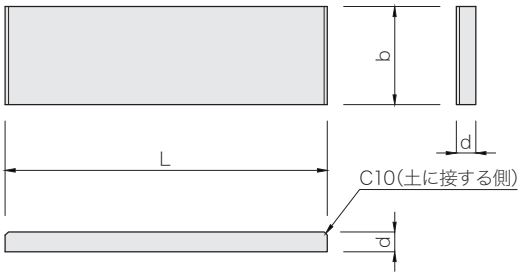


柵板(1480×298×80)

町道8-1056号線(城里町)

柵板とH鋼を使用して土留め壁高さH=300～900mm 程度の簡易の土留めまたは仮設の土留めとする場合に使用します。
L型擁壁等と比較しても施工が簡便で経済的に土留めを構築できます。

注(1)設計概要は背面土がレベルで、上載荷重は群衆荷重5kN/㎡程度を考慮して設計をしています。
受働板有りの場合や盛り土の場合も安定構造計算が可能です。
土留め高さや現場の土質等の設計条件によりH鋼のサイズや根入れ深さが異なります。
(2)受働板を使用することによりH鋼の根入れ深さを浅くできます。
(3)受働板は土側に寄せて、施工してください。
(4)柵板の面取りがある側が土側、受働板は面取り無し側が土側ですので、反対に施工されないようにご注意ください。
(5)H鋼の取り扱いもしております。詳しくは担当営業にお問い合わせください。

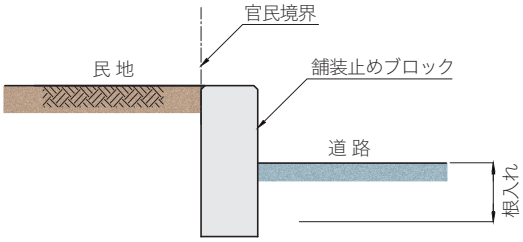


呼び名		寸法(mm) L	b	d	参考質量(kg)	抵抗モーメント Mra (kN・m)
柵板	50	980	298	50	34	0.3454
		1480			52	
	60	980		60	41	0.6600
		1480			62	
	80	980		80	55	1.0140
		1480			82	
受働板	80	980		80	55	2.9470
		1480			82	

舗装止めブロック

CAD data DWG SFC

施工例(参考)

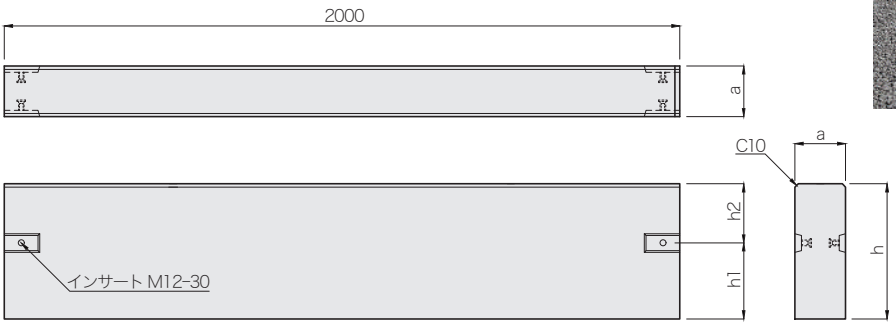


民地と道路の境界(官民境界)で高低差がある場合などに使用する舗装止め専用のブロックです。
高さはH=300、400、500と3種類ありますので、現場に合わせて連続施行が可能です。
片基礎付歩車道境界ブロックA(P.193)も同じように使用できます。

舗装止めブロック(300×150)

(古河市)

※最小根入れについては、概ね製品高さの15/100以上としてください。



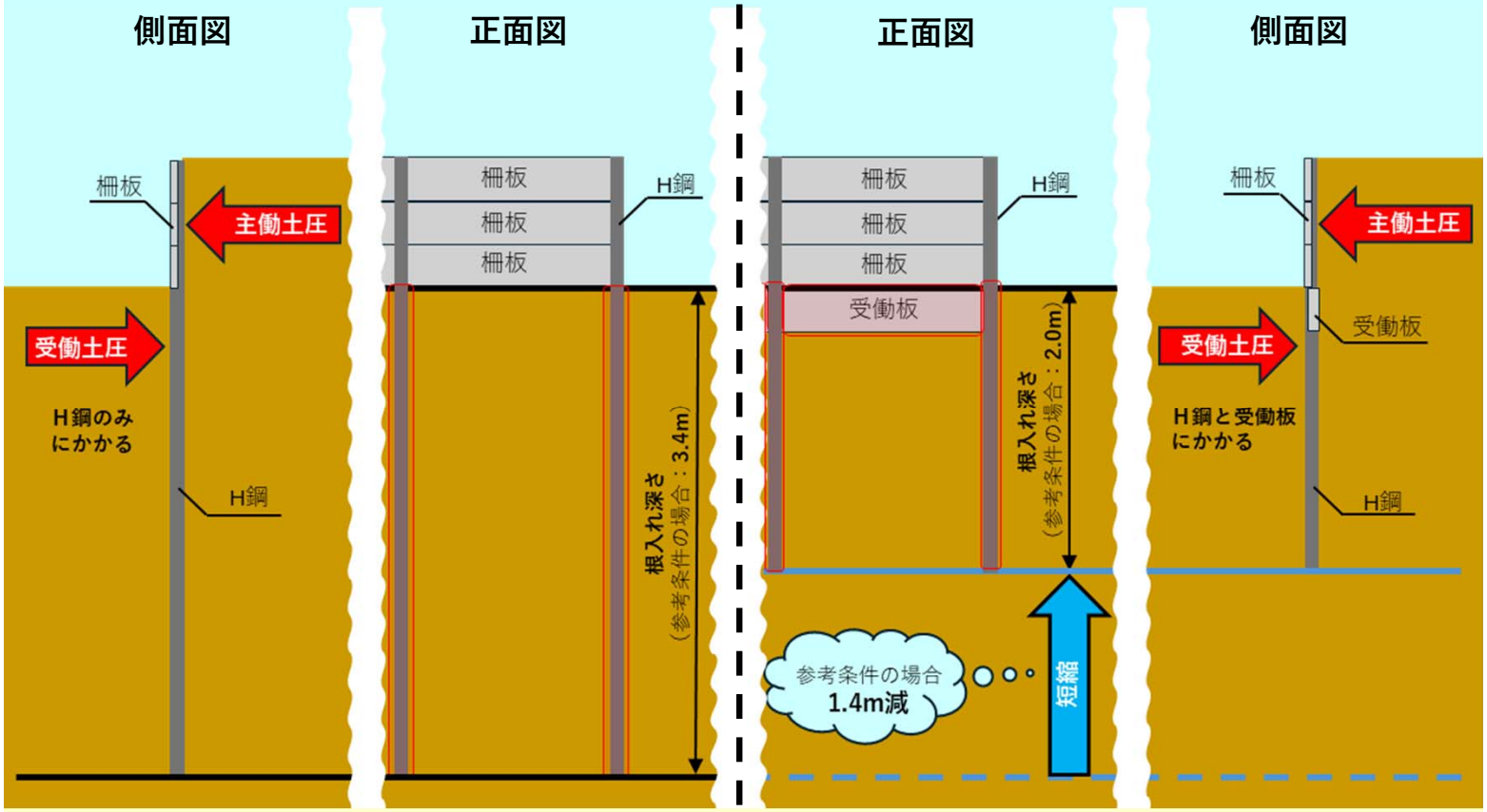
呼び名	寸法(mm) a	h	h1	h2	参考質量(kg)
300×150	150	300	125	175	210
400×150		400	225		282
500×150		500	325		352

簡易土留め(柵板・H鋼)

受働板を使うとどうなる？

＜柵板3段の場合＞

＜柵板3段＋受働板1段の場合＞



H鋼の幅でしか
受働土圧を受けられないから
必要な根入れ深さは大きいね

H鋼と受働板で
受働土圧を受けられるから
必要な根入れ深さを
小さくできる！

【参考条件】

区分	レベル
土の単位重量(主働・受働側)(kN/m^3)	19
土の内部摩擦角(主働・受働側)(°)	30
上載荷重(等分布)q(kN/m^2)	5.0
荷重作用位置(m)	0.0
H鋼のサイズ	100×100
H鋼のスパン (m)	1.5

TOYO 東洋コンクリート工業株式会社